

研究主題について

友だちとかがわり合いながら、 英語表現に親しみ、 進んで英語で表現しようとする子どもの育成

2年次 「評価の工夫改善について」

言語は、論理や思考など知的活動だけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤となるものである。言語活動は、豊かなかがわり合いの中でこそ充実し、より質の高いものとなり得る。そして、ことばの力は伸ばされ、それがまた人間関係を高めていく。

児童が、主体的な学習者となり、自分の考えを確認し深め、自らを確立していくためには、様々な体験と人とのふれあいが欠かせないのである。そこに研究主題の前段部分に「友だちとのかがり合い」が来る必然性があると考え。しかし、そういった多様な社会経験が今の児童に不足気味であることは否めない。それを補うものとして、学習場面での多様な「友だちとのかがり合い」が必要なのである。このことは、思考力・判断力・表現力の育成を目指す「ひろしま型カリキュラム」英語科の設立の大きな理由の1つであり、小学校英語科のねらいにも通じるものである。

さて、授業として、具体的には、問題を追及する学習の中で、自分の発見や疑問、思ったことや考えたことを伝え合い、友だちとしっかり意見交流することによって、新たな発見の感動や喜びを得ることができる。また、自分の考えを再確認したり深めたりすることもできる。さらに、今まで気づかなかった友だちの一面を知ることや自分の考えの変容(深まり・広がり)により、相手のよさや自分との違いを理解し、大切にしようとする心が育つ。そして、そのことが、よりよい人間関係を持った学習集団の形成へとつながるのである。

英語は、児童にとって、決して身近な言語ではない。言語自体は、主観的なものであるのに対して、身近でない英語は、児童にとって客観的であり、そこに、児童が英語に親しみ、進んで英語で表現しようとする態度を育む大きな可能性があると考え。感情や考察を直接伴う日本語では、少し抵抗のある内容であったとしても、英語表現であれば、その児童の理解や「慣れ・親しみ」による活動として、その抵抗を緩和し、積極的なかがわり合いを生み出すことができるのである。

英語の音声や基本的な表現にしっかり慣れ親しみ、かがわり合いによる相互評価や自分の高まりを自覚し、英語を聞いたり話したりすることの楽しさをしっかり味わわせたいと考える。

以上のことから、基礎・基本の確かな力をもとに、友だちとのかがり合いを通して、主体的に学ぼうとする子どもを育成し、さらに人間関係を高めていきたいと考え、この主題を設定した。